

日本が約束した6%削減目標を確実に達成するため、総力を挙げて国民全体で取り組む決意です。特に、排出量の伸びが著しいオフィスや家庭を中心に、新たな対策を追加し、本年度中に京都議定書目標達成計画を見直します。

政府は、すべての公用車を低公害車にするなど温室効果ガスの削減に率先して取り組み、既に大きな効果を挙げています。自治体や主要な業務部門に計画の公表を要請し、行動の加速化を促したいと思います。

また、「国民運動」を展開し、制度的な対応を含めて取り組みを強化していきます。

「1人1日1kg」の温室効果ガスの削減をモットーとして、ライフスタイルの見直しや、家庭と職場での努力や工夫を呼びかけます。具体的には、クールビズの定着、ゴミの減量、白熱球の蛍光ランプへの交換、省エネルギーのアドバイス事業などを推進します。

さらに、国民運動の展開については、新しい提案を公募し、効果が確認できれば、積極的に採用していきたいと考えています。

【結び】

以上のとおり、私は、日本国民とともに温暖化対策に最大限の取り組みを行っていく決意であります。そして、先進国、途上国を問わず各国が私の招待に応え、2050年の「美しい星」に向かって共に歩んでいくことを望みます。

私は、この提案に沿って努力を継続し、来年の北海道洞爺湖サミットで成果を上げられるよう取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ます。

「美しい国」という私の考えは、地球環境との調和を図りつつ人類が発展を続けるため、文明のあり方を転換すべきではないかという問題提起でもあります。我が国は、良き伝統と世界最先端の技術を存分に発揮し、渾身の努力を重ねることで、全人類の文明に対し、必ず大きな貢献ができると信じています。「美しい星」の実現に向け、皆さん、手を携え、共に取り組もうではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。

美しい星へのいざない 「Invitation to Cool Earth 50」

【問題提起】

- 京都議定書を超えて、世界全体が参加する排出削減のための新たな枠組み作りが必要。
- 新たな枠組み作りという試みに対して次の3つの懸念が表明されているが、いずれの懸念も克服可能。
 - (第1に) 排出削減に取り組むと、経済成長が阻害されるのではないか？
 - (第2に) 自国が取組んでも他国が取組まなければ、問題解決にならないのではないか？
 - (第3に) 途上国に対策を求めるのは不公平ではないか？
- 我が国は深刻な公害や石油危機を乗り越え、GDPを2倍とする中で石油消費を8%減少。
問題解決の鍵は、優れた技術、環境と調和した社会の仕組みや伝統、私達の意志。

【提案の全体像】

- 本日、皆様を2050年の美しい星、地球に招待したい。
- このため、次の3つの柱からなる「美しい星50 (Cool Earth 50)」というパッケージを提案

【提案①：世界全体の排出量削減のための長期戦略の提唱】

- 「世界全体の排出量を現状から2050年までに半減」という長期目標を世界共通目標として提案。
- その達成のため、「革新的技術の開発」と「低炭素社会づくり」という長期ビジョンを提示

【提案②：2013年以降の国際枠組み構築に向けた「3原則」の提唱】

- 2013年以降の温暖化対策の具体的枠組みを設計するための「3原則」を世界に提案。
 - (第1) 主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながることを
 - (第2) 各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること。
 - (第3) 省エネなどの技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立すること。
- 我が国として志の高い途上国の支援のために新たな「資金メカニズム」を国際協調で構築
- エネルギー効率の向上の取組を世界に拡大。原子力利用拡大の国際取り組みや基盤整備の支援。
- 公害対策と温暖化対策の一体的取組、排出量取引、経済的インセンティブなどの手法を検討。

【提案③：京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開】

- 京都議定書の6%削減目標達成に向けて、京都議定書目標達成計画を見直す。
- 政府の率先的取組を進め、自治体や主要な業務部門の行動の加速化を促す。
- 「国民運動」を展開し「1人1日1kg」削減のモットーの下で様々な努力や工夫を呼びかけ。
また、国民運動の展開について、新しい提案を公募し、採用する。

【結び】

- 「美しい国」という私の考えは、地球環境との調和を図りつつ人類が発展を続けるため、文明のあり方を転換すべきではないかとの問題提起でもある。「美しい星」の実現に向け、手を携えて、共に取り組もうではありませんか。